

平成29年 第10回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 平成29年10月19日(木) 午後2時00分～午後3時00分

2. 場 所 総合教育センター 2階 講座室

3. 出席者 <教育委員会>

教育長	木下 誠	教育委員	秋田 久子
教育委員	江原 礼子	教育委員	川崎 かおり
教育委員	川畑 徹朗		

<事務局>

教育次長	二宮 叔枝	総合教育センター主幹	尾崎 眞弓
学校教育部長	村上 順一	保健体育課長	増田 健一
生涯学習部長	山中 茂	小学校給食センター所長	鴨川 憲之
教育長付参事	柳田 尊正	中学校給食センター所長	長澤 利文
教育長付参事	谷澤 伸二	社会教育課長	中畔明日香
学校教育部参事	佐藤 幸宏	公民館長	池田 真美
総合教育センター所長	後藤 猛虎	博物館長	亀田 浩
人権教育室長	佐藤 文裕	人権教育担当主幹	森口 真一
職員課長	植松 俊二	少年愛護センター所長	河崎 信良
施設課長	宮木 哲男	図書館副主幹	岡田 宣隆
教育企画課長	矢田貴美代	教育総務課長	池田 昌弘
学校指導課長	廣重久美子	教育総務課主査	高田 幸美
学事課長	大村 寿一	教育総務課	寺内 みこ

4. 欠席者 なし

5. 傍聴人 1人

6. 議 事

(1) 開会宣言 木下教育長(午後2時00分)

(2) 日程報告 木下教育長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。

日程第 1 平成29年第9回定例会会議録の承認

日程第 2 教育長報告

日程第 3 議案第64号の審議

日程第 4 議案第63号の審議

日程第 5 議案第65号の審議

(3) 平成29年第9回定例会会議録の承認（日程第1）

平成29年第9回伊丹市教育委員会定例会（平成29年9月14日〈木〉開催）会議録については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

管理部長より「10月分人事報告」・「9月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「9月分の寄附採納報告」について、学校教育部長より学校教育部の、生涯学習部長より生涯学習部の、教育長付参事より人権教育室の、幼児教育施策推進班長より幼児教育施策推進班の9月分行事実施報告」・「11月分行事実施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

江原委員 7-5ページの適応教室「やまびこ館」通館児童生徒統計について。夏休みが終わり2学期が始まったが、通館者数に変化が見られない。学期変わりのタイミングが登校のきっかけとなっていないところを見ると、改めて学校復帰の難しさを感じる。夏休み中も学校の先生方や保護者は様々な働きかけをしてくださったと思うので、その辺りの取り組みについてお聞かせいただきたい。

尾崎主幹 8月の通館者数はやまびこ館14名、学習支援室14名であった。特に1学期にほとんど登校できていない生徒に対しては、担任の先生や学年の先生、部活動の先生が声かけをして、別室への登校や部活動の行事に参加することができたケースもある。個別の学習会に参加することができた子もいる。他の生徒がいないから学校に出てきやすいということもあったのかもしれない。ただ、江原委員がおっしゃるように新学期の登校に繋がるかというとなかなか難しい。学校に行ってみようということで8月末にチャレンジタイムという取り組みをしたところ、やまびこ館から5名と学習支援室から5名の生徒が参加できたということもある。少しずつ前に進んでいけたらと思う。

江原委員 ありがとうございます。

数字だけでは分からない部分があり、別室登校等の工夫をされているということに感謝申し上げたい。

同じページのメンタルフレンド派遣児童生徒統計について。近年小学生への派遣が多くなっていると感じる。小学校は中学校に比べて担任の先生との関係が強いと思うが、そういったこととは関係があるのか。

尾崎主幹 メンタルフレンドの派遣対象者は、小学生3名と中学生1名となってい

るが、この中学生も小学生の頃から継続してメンタルフレンドを派遣している。実はこの4名は2人、2人の兄弟である。どちらの兄弟も派遣を始めて3、4年で、なかなか登校に至っていない状況がある。しかし、メンタルフレンドが訪問した際には笑顔を見せて一緒にゲームをするなど、繋がりはできていると感じている。そういった様子をメンタルフレンドが学校に伝えるなどして学校と家庭を結び付ける努力はしているところである。

江原委員 ありがとうございます。やはり難しい状況があると改めて思った。メンタルフレンドとの関係はできているということなので、今後そういった繋がりにから子どもが外への興味を持つきっかけが生まれればと思う。

18-3ページの生涯学習関連施設利用状況一覧（スポーツ）に関連してお尋ねしたい。小中学校の連合体育大会や幼稚園のなかよし会がスポーツセンターの陸上競技場で実施された。体育館は少し前に改修され、なぎなた大会ではとても良い環境で生徒が力いっぱい頑張っている様子を見ることができ、非常に嬉しく思った。今回、陸上競技場での行事ということでいくつか気になった点があるのでお聞きしたい。マイクの音が途中で途切れたり、音楽がきちんと流れなかったり、小学校の連合体育大会のときは女子トイレが詰まってしまい、大勢の子どもたちが並んで待っていたという状況が見られた。今後、来年度の予算編成に向けてそういった箇所を改善される動きがあるのかお聞きしたい。

山中部長 伊丹スポーツセンターは、体育館を平成28年度、陸上競技場を平成29年度に財団から市に移管し、市の所有になったところである。江原委員ご指摘のとおり、トイレの詰まりや放送設備の不具合が発生しており、そういった報告を受けている。現在スポーツセンターと調整しており、修繕に向けて予算要求していく方向で動いており、しっかり財政側に説明し、きちんと予算が付くよう努力したい。

江原委員 ありがとうございます。やはり子どもたちが真剣に取り組んでいる最中にマイクが切れてしまったり、音楽がきちんと流れないということがあると、子どもたちの気持ちが揺れたり、意欲がそがれたりして、危険な事故に繋がることもあるかもしれない。来年度の予算要求にあたっては、事務局にはぜひ頑張っていたきたい。

川崎委員 5ページの9月の学校指導課の行事実施報告について。6日（水）に開催された第2回公私立幼稚園・こども園・保育所（園）合同研究会では、

それぞれの施設の職員が参加され、共通理解を図ったということだが、具体的な内容を教えていただきたい。

矢田 課長 前半は、講師の方が幼稚園とこども園、保育所の教育要領はどのように変わるかということ、同じ部分はどこかということ、それぞれの特色はどこかということについてお話しいただいた。後半は、遊びを通した学びをどう考えるかということについて事例を示しながら説明してくださった。

川崎 委員 ありがとうございます。分かりました。

秋田 委員 その件で、幼稚園と保育所と両方に子どもを預けた私の経験から、感想を含む要望を申し上げる。共通理解を図りながらひとつの形に向かって進めていかれると思うが、おそらく次の段階ではそれぞれの違いが目につくことになるだろう。同じ言葉を使いながらも実は指している内容が違うということが出てきて、お互いの考えを分かりあうまでに時間がかかると思う。しかし、それぞれに特徴があるから溶け合わないのは当たり前である。今、矢田課長がおっしゃったように、それぞれの特徴を活かしたカリキュラムで、同じ目的に向かってという認識を毎回確認しながら進めてくださったらと思う。神津こども園を訪問したときに、設立した当初は溶け合わないこともあったというお話をお聞きした。今は本当にうまく動いているのにも関わらず、再編の説明で回ると幼稚園と保育所は溶け合うのが難しいという意見が今でも聞かれるとのことだ。当時の悪いイメージが残っていると感じる。むしろ違いがあるから新しいものが生まれる。だから、違いがあって当たり前だと前向きに捉える雰囲気が出て、話が良い方向に進むことを願う。

矢田 課長 秋田委員がおっしゃったことの大切さを今感じている。幼児教育ビジョン策定委員会が始まり、10月の終わりにはカリキュラムのワーキングが始まる。同じ言葉でも幼稚園と保育所で理解が違うことがあるので、一つ一つ丁寧に確認しながら共通理解の下で進めていきたいと思っている。

秋田 委員 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

7-5ページの適応教室「やまびこ館」通館児童生徒統計等について。とても丁寧に、継続したアプローチをかけてくださっていて有難い。既にしてくださっているかもしれないが、中学生で不登校が長くなって人間関係が切れてしまつてとなると、個別のアプローチだけでは、本人が自分の状況を客観的に把握できる機会がない。その環境では不安だけが大きくなり、どんどん後ろへ引き込んでしまつて、出るのが怖いとなつていきがち

だ。それは年齢を問わず共通の心理である。対象の生徒が複数人いるのであれば、当事者同士が話をすることも必要だと思う。おそらく本人たちも言葉にできるぐらいには原因が分からないと思う。だから、当事者同士が継続的に話をする機会を作ってくれれば、自分だけじゃないという安心感が生まれて、次にこれからどうしようというふうに気付きが進むと思う。中学生の段階で個別アプローチだけだと仮定すると、むしろ不安感が大きくなっていくのではと思った。

尾崎主幹      ありがとうございます。特にやまびこ館はコミュニケーションを苦手と感じている子どもが多いので、学習の時間だけでなく、おしゃべりや運動など周りと一緒に何かする時間も大事にしており、小集団からコミュニケーションに慣れていくという取り組みをしている。学校においても別室登校の部屋では不登校の子たちが話をするという場面も作りながら、すぐに教室でというわけにはいかないが、小集団の中から徐々に進んでいけるようにしていきたいと思っている。

秋田委員      ありがとうございます。よろしくお祈りします。

もう1点申し上げる。教育委員会の教育長報告に市高が入っていない。市立高校は1校しかないということもあるかもしれないが、発展のためには内部に風を通すこと、目を外へ向けることが大事である。教育長報告に市高の項目を設けることで、同時に学校は、見てくれていると感ずることができる。教育企画課でワーキンググループ会議をしてくださっているが報告は折々である。やはり市高の管理職や先生方も何か定期的な報告とか、学校の現状を説明することが必要で、教育委員会ももっと市高を視野に入れるということが必要だと思う。

また、伊丹市の地の利だが、市内には公立の高校が複数あり、工業と水産農業等の学科はないが、それ以外のほとんどの学科がある。先ほど窓を開いていくべきと申し上げたが、同じ校種間での交流を図ることも活性化のためには必要だと思う。第一段階として、学校が日常的に教育委員会に向かって、市民に向かって窓を開く、それが定期的になって風が通る、そして次の段階として学校に負担のない校種間の交流を行うことが必要だと考える。

木下教育長      市高の活性化については、学校と事務局で推進チーム会議を年3回実施しているが、秋田委員がおっしゃったのは、毎月の教育長報告に市高を入れて、市高の動きを教育委員会の視野に入れることが必要だということだ

と思うので前向きに検討していきたい。

高校間の交流についてだが、土曜学習など様々な場面で高校生がボランティアに来てくれている。例えば、先日花里小学校で走り方教室を開催した際には、県立伊丹西高校の生徒が協力してくれた。そういった取り組みは他にもあるので、集約して周知させていただきたい。

秋田委員 説明が不足していたようだ。1点目は、事務局と学校が打ち合わせをしているところに教育委員会が参画するという事ではない。教育長報告に入っていないから日常的に状況を把握して知ることができないということである。

2点目は、教職員の資質向上のために外部との交流機会を増やすということである。そういう意識を我々教育委員会が持って、先生方が資質向上できるように先生方の窓を開くということを考えていけたらと思う。

木下教育長 検討する時間をいただきたい。

秋田委員 よろしく申し上げます。

#### (5) 議案第64号の審議（日程第3）

木下教育長より「議案第64号 伊丹市立北部学習センター及び伊丹市立図書館北分館の指定管理者の指定の申出について」を議題とする旨の発議の後、「伊丹市立北部学習センター及び伊丹市立図書館北分館の指定管理者の指定について議会の議決を求めため、市長に申し出ようとするものです。」との説明がなされ、生涯学習部長より補足説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「議案第64号」を原案のとおり可決。

#### 質疑応答

秋田委員 今までの評判等を教えていただきたい。

山中部長 今年の夏祭りも大変多くの方が来てくださって、とても賑わっていた。行政やNPOだけでなく、地域の方や県立伊丹北高校の生徒が運営に携わってくださることも多く、本当にいつ行っても活気がある。事務局としては引き続き、きらめきさんをお願いしたいと思っている。

木下教育長 利用者は年間10万人を超えていると思う。地域の実態を踏まえて様々なニーズに対応した取り組みをされていて、生きがいに資するような行事を企画運営されている。地域だからこそできる取り組みだと思う。

秋田委員 環境もいい。ありがとうございます。

川崎委員 夏祭りに子どもと参加したが大人も一緒に楽しめると感じた。

(6) 議案第63号の審議（日程第4）

秘密会で審議の後、全委員一致で、「議案第63号 伊丹市スポーツ推進審議会委員の委嘱について」を可決。

(7) 議案第65号の審議（日程第5）

秘密会で審議の後、全委員一致で、「議案第65号 平成29年度教育委員会事務局管理職人事異動について」を可決。

(8) 閉会宣言

木下教育長（午後3時00分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育長 木下 誠

伊丹市教育委員会委員 江原 礼子